

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成29年10月26日 (2017.10.26)

【公開番号】特開2017-10758(P2017-10758A)

【公開日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2017-002

【出願番号】特願2015-124766(P2015-124766)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/42 (2006.01)

H 0 1 R 31/08 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/42 F

H 0 1 R 31/08 Q

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月14日 (2017.9.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

前記端子収容室 4 1 は、前記複数の電線側端子 2 0 がそれぞれ当該電線側端子 2 0 の軸方向に沿って挿入されるのを受け入れる形状を有する。具体的に、前記複数の端子収容室 4 1 は、縦横に並ぶように、すなわち上下複数段にわたって左右方向に並ぶように、形成され、各端子収容室 4 1 は前記軸方向の一方の側（図 1 及び図 2 では右側）に開口する端子挿入口 4 1 a を有する。前記各電線側端子 2 0 は、前記電気接触部 2 4 を先頭にして前記端子挿入口 4 1 a から対応する前記端子収容室 4 1 内に挿入されることが可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

前記複数のランス 4 2 は、それぞれ、前記各端子収容室 4 1 に挿入される電線側端子 2 0 を係止（一次係止）する端子係止部を構成する。当該ランス 4 2 は、いわゆる片持ち梁状をなす。具体的に、当該ランス 4 2 は、図 1 及び図 8 に示されるように、前記端子収容室 4 1 を画定する壁の一部とつながる基部と、その反対側の端部である先端部と、を有し、当該背先端部が前記電線側端子 2 0 の軸方向と直交する方向（図 1 では下方向）に撓み変位するように、ランス 4 2 が弾性変形することが可能である。当該ランス 4 2 は、前記先端部が前記電線側端子 2 0 から退避する向き（図 1 では上向き）に撓み変位することにより、前記端子収容室 4 1 内に前記電線側端子 2 0 が挿入されるのを許容する一方、前記電線側端子 2 0 が当該端子収容室 4 1 内に完全に挿入された状態で一部弾性復帰することにより、当該電線側端子 2 0 を前記端子収容室 4 1 内に係止（一次係止）する。具体的には、当該ランス 4 2 の前記先端部がその挿入された電線側端子 2 0 の適当な部位（図 4 及び図 5 の例では電気接触部 2 4 の中間部位）と係合して当該電線側端子 2 0 の離脱を阻止する。